

フィリピン大学ロスバニョス校 長期派遣留学帰国報告

国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科

4 年 牟田咲美

私はフィリピンでアグリビジネスについて学ぶこと、英語力を高め、国際的な視野を広げること、そしてフィリピンでの食文化や国の文化触れることを目的に、フィリピン大学ロスバニョス校に1年間留学をしました。

フィリピンには少し危険なイメージがありましたが、住んでいたロスバニョスは都市部から離れており、治安は悪くありませんでした。そのため、カフェでパソコンを置いたまま席を離れても安全でした。また、ロスバニョスの人々は親切で、交通も都市部と比べると穏やかでした(日本と比べると荒い運転ですが)。想像より快適な生活を送ることができ、素敵な街に滞在することができました。

授業はすべて英語で行われ、アグリビジネスの専門科目を履修しました。例えば、農産物が消費者の手に渡るまでの過程を学んだり、市場分析に基づいた経営戦略を立てて発表するグループワークに取り組んだりしました。英語の授業についていくのは大変で、事前に講義資料を先生にいただいて予習し、なんとか授業についていけるように工夫しました。それでも、定期的に行われる小テストや試験では、問題文の理解や解答の文章化が難しく、なかなか良い点数をとることができませんでした。そのたびに先生が追試の機会を設けてくださり、なんとか点数をとっていました。この経験を通じて、英語で専門科目を学ぶ難しさと、自分の英語力の不足を痛感しました。しかし、帰国後に授業で使っていたノートを見返すと自分の成長に気が付きました。留学当初はスライドを写すだけの英語で書かれたノートでしたが、2学期目には授業中に英語で理解したことを日本語でメモしていることが多くなっていました。英語で理解したことを英語でメモし、説明できることが理想ですが、日本語でメモをとれるようになったことは、授業を理解できるようになった証だと思います。試行錯誤を繰り返しながら、講義やグループワーク、校外学習を通じて、フィリピンのアグリビジネスについて理解を深めることができました。

大学生活は驚きの連続でした。授業があると多くの人が集まるため、学内 Wi-Fi はほとんど機能しませんし、携帯のモバイルデータも圏外になってしまいます。また、停電が頻繁に発生するため、試験中に停電が起きても皆普通に試験を続けていました。薄暗くなる時間に行われる試験では、停電に備えて懐中電灯の持ち込みが義務付けられていました。

友人と関わる中で、時間感覚の違いにも驚かされました。待ち合わせをすると30分から1時間ほど遅れてくることが普通です。イベントや授業も開始時間の30分から1時間後に始まることもありました。最初は戸惑いましたが、だんだんフィリピンタイムに慣れ、私も少し遅めに到着して対応するようになりました。

学業以外にも、現地での経験は多岐にわたりました。後期からはフェイスブックでチームを見つけて大学のバレーボール部に所属しました。大会ではチームメイトとのコミュニケ

ーションを大切にしていし連携し、練習の成果を出して優勝することができました。この部活動を通じて、同じスポーツを楽しむ仲間として、授業で知り合う友達とは異なる絆を深めることができました。勇気を出してバレーボール部に参加し、素敵な仲間に出会えて貴重な経験をすることができました。

授業がない日には飛行機やフェリーを使って多くの場所を旅行しました。旅行先はミンドロ島、パラワン島、バギオ、タガイタイ、バナウエ、セブ島、ボラカイ島など様々でタガログ語以外の言語を話している地域や、都市部とは異なる寒冷な気候を体験し、大学のある地域とは異なった文化を楽しむことができました。フィリピンでの留学生活は、学業だけでなく文化の違いや新たな環境での適応力を学ぶ機会となり、私にとってかけがえのない経験となりました。

このように充実した留学生活を送る一方で、言語の壁にぶつかることもありました。クラスメイトたちは私をよく食事に誘ってくれましたが、彼らは小学校から英語で授業受けており、英語を流ちょうに話せますが、日常会話では母国語のタガログ語で話していました。私はタガログ語が分からなかったため、会話に入れず食事中ずっと疎外感を感じていました。そしてその状況が怖くて、現地の友人と食事に行くのを避けるようになり、他の国からの留学生や日本人とばかり過ごしていました。しかし、留学の目的である「現地の文化に触れる」ことを改めて意識し、勇気を出して積極的に食事に参加することに決めました。まず、隣の友人に「今何を話しているの？」と英語で聞くようにしました。すると、周りの友人たちも私を巻き込んで英語で話してくれたり、タガログ語を翻訳してくれたりするようになりました。また、簡単なタガログ語のフレーズを覚え、自分からも質問することで、友人たちとの距離を縮めました。この経験で自分が少数派であっても、積極的に対処する力が身につきました。

このようにフィリピン留学を通じて、本当にたくさんのことを学びました。現地での生活は、学業だけでなく、文化の違いや新しい環境への適応力を学ぶ貴重な経験となりました。そして充実した日々を過ごし、当初の目的以上のものを得ることができました。卒業後はグローバルに展開している企業への就職を予定しています。将来的には海外駐在をして、留学で培った異文化理解や柔軟な適応力を活かし、グローバルな舞台で活躍したいと考えています。



図 1 チームメイトとの写真

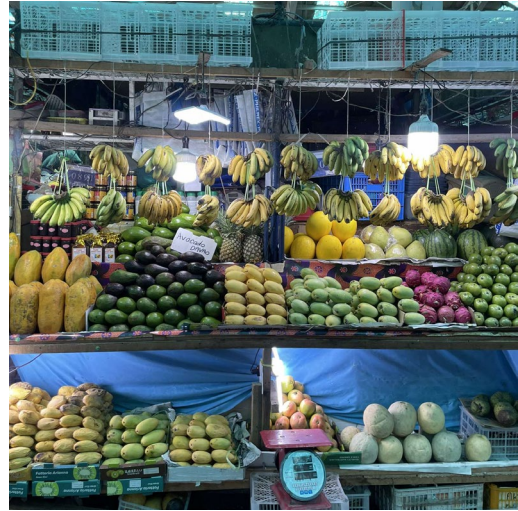


図 2 ローカルマーケット